

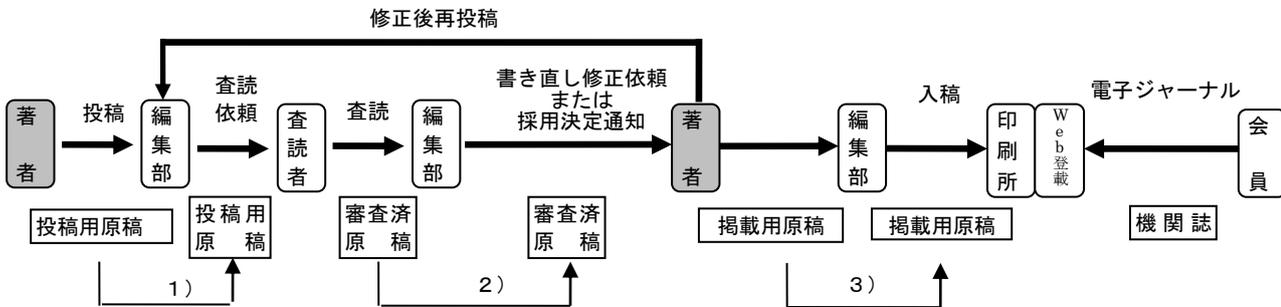
投稿規定

1. 本誌は、公益社団法人日本理学療法士協会東北ブロック協議会の機関誌として、理学療法及び関連領域における、実践報告と研究発表の場を提示することを主な目的とし、研究論文、症例研究、短報、その他を掲載するものです。
2. 投稿の筆頭著者は本会の会員に限ります。但し、東北ブロック協議会理事会の決定により、会員外の著者に投稿を依頼することができます。
3. 原稿の採否、掲載順は機関誌編集委員会で決定します。査読の結果、編集方針に従って、加筆、削除及び一部書き直しをお願いすることがあります。また、編集委員会の責任において、多少字句の訂正をすることがあるのであらかじめご了承下さい。
4. 原稿は、楷書、横書き、現代かなづかいを用い、句読点は正確かつ明瞭に書いて下さい。数字は算用数字、数量は国際単位系（SI 単位）を用いて下さい（例：m, kg, s, °C, Hz 等）。
5. 原稿の量は、刷り上がりで 8 頁以下におさまるよう、研究論文、症例研究は図・表・写真、および文献を含んで 40 枚以内として下さい。なお、詳細な執筆要綱は別に定めます。
6. 外国語名（地名、人名、その他）は、原則として原語を用い、タイプもしくは活字体で明瞭に書いて下さい。術語はできる限り訳語を用い、必要に応じて（ ）の中に原語を入れて下さい。
7. 文献は文末にまとめて引用順に列挙し、以下の例にならって掲げて下さい。
 - ①雑誌の場合；
執筆者：題名．雑誌名，巻(号)：ページ，発行年.
例)
 - a) 徳永英世，他：下肢装具における膝伸展補助装置について．理・作・療法，9(12):883-886，1975.
 - b) Howell S, et al. : Chest physical therapy procedures in open heart surgery. Phys Ther, 58 : 1205-1214, 1978.
 - ②単行本の場合；
著者名：書名，引用ページ，発行所，発行場所（外国の場合のみ），発行年.
例)
 - a) 服部一郎，他：リハビリテーション技術全書，p.86-96，医学書院，1974.
 - b) Kapandji IA : The Physiology of the Joints, 2nd ed., pp.165-180, Churchill Livingstone, Edinburgh, 1970.
8. 原稿には必ず表紙をつけ表題、著者名、所属を付記して下さい。また、400 字以内の和文要旨とキーワード（5 個以内、なるべく和語）を必ず添えて下さい
9. 著者校正は原則として 1 回とします。校正は赤インクで行うものとします。
10. 他誌へ発表されたもの、または投稿中のものはご遠慮下さい。

学術機関誌への投稿にあたって

〈投稿要綱〉

東北理学療法学では第 18 号より査読回数が 2 回から 3 回に変更となりました。発刊までの過程は、下図のようなフローチャートに従って作業が進行します。



1) 投稿用原稿¹⁾について（上図フローチャート参照）

投稿しようとする場合は、以下に示す執筆方法に注意しながら、「投稿用原稿」を作成して下さい。投稿用原稿送付時には原稿のデータを E-mail で送信して下さい。E-mail で送信できない場合は、印字された原稿と共に原稿のデータが保存されているコンパクトディスク（CD）等を郵送して下さい。

投稿された論文は編集部を通じて 2 名の査読者に送付され、4 週間程度で第 1 回目の査読が行われます。査読を受けた原稿（審査済原稿）²⁾ は、編集部にて採用、一部修正、修正、不採用を決定します。修正が必要な場合は一旦著者に返送され、書き直し修正の依頼が行われます（3 週間程度）。その後、第 2 回目の査読（1 週間程度）が行われ、必要の場合は著者に再修正の依頼を行います（1 週間程度）。第 3 回目の査読（1 週間程度）を経た結果をもとに、編集部にて最終的な採用、不採用を決定します。

2) 掲載用原稿³⁾について（上図フローチャート参照）

採用の決まった著者は、編集部宛に「掲載用原稿」を提出して下さい。掲載用原稿提出の際には、印字された原稿と共に CD 等をあわせて送付して下さい。

〈執筆規定〉

1. 記事の種類は、研究論文、症例研究、短報、その他の編集区分を表紙の左上に明記して下さい。

1) 研究論文：新規性および独創性があり、明確な結論を示した論文。

2) 症例研究：症例の臨床的問題や治療効果について科学的に研究を行い、考察を行った論文。

3) 短報：研究速報・略報として簡潔に記載された短い研究論文。

4) その他：総説、症例報告、実践報告など編集委員会で掲載が適切と判断された論文および記事（なお、症例報告とは症例の治療および経過などに論理的に提示し、考察を行ったもの。実践報告とは、理学療法研究・教育・臨床等の実践の中で、新たな工夫や介入、結果等について具体的かつ客観的に情報提示し、その内容が有益と判断されたもの）

また編集部から区分変更のお願いをする場合もあります。

2. 原稿を作成する際はワープロを使用し、1 枚につき 20 字×20 行のフォーマットで A4 版用紙（原稿用紙を使用する必要はありません）で作成して下さい。下記の規定の原稿枚数（図・表・写真の換算方法は後述します）を守って下さい。

研究論文、症例研究は、図・表・写真、および文献を含んで 40 枚以内として下さい。

短報は、図・表・写真、及び文献を含んで 24 枚以内として下さい。

その他は、32 枚以内として下さい。

論文タイトル、著者名、職名、所属、和文要旨、キーワード等は本文の字数（総ページ数）に含めないで下さい。本文余白（上下左右 20～30mm 程度）には必ずページ番号を振って下さい。

3. 原稿は印刷の薄れやカスレのないように注意し、はっきりと明瞭なものを提出して下さい。
4. 和文要旨は、目的、対象、方法、結果、結語を含み、これのみで論文全体の内容がわかるように記述し、400 字程度に記載して下さい。本文とは別に、A4 版用紙 1 枚に作成して下さい。本文との書式は統一する必要はありません。
5. キーワード
 - 1) 要旨の次に「Key words : 」と見出しをつけて記載して下さい。
 - 2) キーワードはなるべく和語で 5 個以内を厳守して下さい。各キーワード間はセミコロン（;）で区切って下さい。
(例) Key words : 脳卒中 ; 歩行 ; 下肢装具 ; 下腿三頭筋 ; 床反力
 - 3) キーワードにはできるだけ略語を用いないようにして下さい。
6. 表紙には、最初に和文による論文名及び著者名を記載して下さい。その次に、和文による著者の所属と職名、英文による著者名・職名・所属の順に記載して下さい。
また、表紙の末尾には、表紙枚数、要旨及び Key words の枚数、本文枚数、図の枚数、表の枚数、さらに、写真を使用する際は写真の枚数を記載して下さい。
7. 原稿中の英数字はすべて半角文字を、片仮名は全角文字を使用して下さい。

〈図・表・写真について〉

1. 図表及び写真は、「原図使用」あるいは「原表使用」の指定がない場合は原則としてトレース作図あるいは作成し直すこととなります。「原図使用」あるいは「原表使用」の指定がある場合はそのまま製版しますので、縮小しても線があまり細くならないように配慮して、鮮明にかつ適切にトリミングして下さい。
2. 図表及び写真の大きさは、原則として以下の 3 種類とします。
2 段組で書かれた本文中に割り付ける際に、どのサイズを希望するか、余白または裏に鉛筆書き等で割り付け希望サイズ（1 頁大、1/2 頁大、1/4 頁大）を明記して下さい。本文とあわせて総ページ数を超えないように注意して下さい。
 - 1) 1 頁大：文字数換算で 1,600 字程度（400 字詰め原稿用紙 4 枚相当）
刷り上がりで 1 頁分のスペースを要するサイズ
 - 2) 1/2 頁大：文字数換算で 800 字程度（400 字詰め原稿用紙 2 枚相当）
刷り上がりで 1 頁の上半分のスペースを要するサイズ、または、横幅が 1 頁の横半分（左右どちらかの 1 段分）のスペースを要するサイズ
 - 3) 1/4 頁大：文字数換算で 400 字程度（400 字詰め原稿用紙 1 枚相当）
刷り上がりで 1/2 頁大のさらに半分のスペースを要するサイズで、横幅が 1 頁の左右のどちらか横半分以内のもの
3. A4 版用紙に 1 枚ずつ作成して下さい。郵送で原稿を提出する場合、糊付けは乾燥後の歪み・反りを防ぐため、必ずスプレー糊やスティック糊を用いて下さい。写真は、製版時に剥がせるように両面テープ等で仮止めして下さい。写真について、トリミングが必要な場合には、あらかじめ適切な大きさにカットしておくか、貼りつけた用紙の上からトレーシングペーパーをかぶせ、トリミングラインを記載して下さい。折れやすいものには厚紙等を使用し、台紙を添えるなど保護に努めるよう心がけて下さい。また、症例等の写真を使用す

る場合、被写体のプライバシーを考慮し、「目隠し」が必要な場合は欄外に「要目隠し」と朱書きして下さい。

4. 図表及び写真には図1, 図2, あるいは表1, 表2, のようにそれぞれ番号を付けて、必ず見出し(表題)を付け、説明文が必要な場合は図表の下に添付して下さい。図の見出しは図下に、表の見出しは表上に付けて下さい。おのおの欄外あるいは裏に掲載時の希望のサイズを明記し、本文と別にして一括して原稿の末尾に添えて下さい。
5. 原稿(本文)中にはレイアウトせず、挿入場所がわかるように、適宜、文中で触れている説明部分などに、図1や表1, あるいはカッコで囲んで(図1)や(表1)のように記述して下さい。
6. なお、写真はモノクロ・キャビネ版の鮮明なものが最適ですが、カラー写真のままでも結構です。電子ジャーナル化に伴い、カラーでの掲載も可能となりましたので、カラー掲載をご希望の際はその旨を明記してください。

〈文献の記入方法について〉

1. 文献は、引用文献のみとし、必要最低限にとどめて下さい。本文末尾に一括して引用順に記載し、原稿の規定枚数内に収めて下さい。
2. 本文中においては必ず引用箇所の上肩に、○○○○¹⁾, ○○○○^{1) -4)}のように肩番号を付して下さい。
3. 著者多数の場合には2人目以上は省略し、和文文献の場合は“○○○○, 他”, 欧文文献の場合は“○○○○, et al.”と書いて下さい(下記凡例1), 2), 5) 参照)。
4. 著者・訳者・編者名が英名の場合は「姓, 名(イニシャル).」の形式とします(下記凡例3), 5), 7) 参照)。なお、訳者, 編者等に関しては氏名の後に訳・編などを付けて下さい(欧文文献では、「edited by ○○」という形式となる)(下記凡例4), 6), 7) 参照)。
5. 雑誌名は公式の文献略称を用いて下さい。
例：理学療法と作業療法 → 理・作・療法
総合リハビリテーション → 総合リハ
リハビリテーション医学 → リハ医学
Physical Therapy → Phys Ther
Archives of Physical Medicine and Rehabilitation → Arch Phys Med Rehabil
Scandinavian Journal of Rehabilitation Medicine → Scand J Rehab Med
6. ピリオド[.], カンマ[,], コロン[:]の付け方に注意して下さい(下記凡例参照)。
7. 通巻頁表示のある雑誌の場合は、()内の“号数”は特別の場合を除き、できるだけ省略して下さい。
8. ページ数は当該論文の文頭から文末までとして下さい。
9. 文献記載の形式は下記の通りとし、例にしたがって誤りのないよう注意して下さい。
注：()内の項目は必要に応じて記入して下さい。
特に、発行地は外国の場合のみ記入し、発行年は西暦で書いて下さい。

《文献記載凡例》

[雑誌] 著者名(訳者名)：論文題名. 雑誌名, 巻(号)：頁, 発行年.

- 1) 徳永英世, 他：下肢装具における膝伸展補助装置について. 理・作・療法, 9(12)：883-886, 1975.
- 2) 窪田俊夫, 他：片麻痺歩行のエネルギー消費と歩行の能率の評価について. 総合リハ, 12：709-715, 1984.
- 3) Howell S, et al. : Chest physical therapy procedures in open heart surgery. Phys Ther, 58：1205-1214, 1978.

[単行本] 著者名(訳者名)：書名. (編者名), (巻), (版), 頁, 発行所, (発行地), 発行年.

- 4) 山崎信寿：大型床反力計による歩行運動の定量的評価. バイオメカニズム学会編, バイオメカニズム第4巻, p.177-185, 東京大学出版会, 1978.

- 5) Voss DE, et al. : Proprioceptive Neuromuscular Facilitation. 3rd ed., pp.289-314, Harper & Row, Philadelphia, 1985.
[書籍中の論文] 著者名(訳者名): 論文名, 書名. (編者または監修者があれば編・監), (版), 頁, 発行所, (発行地), 発行年.
- 6) 田川 宏, 他: 臼蓋形成不全に対する寛骨臼回転骨切り術 (RAO) の適応と手術手技, 変形性関節症のすべて. 山本真・他編, p.217-227, 医歯薬出版, 1982.
- 7) Margareta L: Biomechanics of the lumbar spine, Basic Biomechanics of the Skeletal System. edited by Victor HF, et al., pp.255-290, Lea & Febiger, Philadelphia, 1980.

〈その他の留意事項〉

1. 原稿及び CD 等は, 採否に関わらず原則として返却致しません. 提出論文のコピーを必ず手元に保存しておいて下さい.
2. 著者校正は初校のみとし, 校正は誤植の訂正だけにとどめて下さい. 校正の途中で, 文章や図・表・写真を変更することは認められません.
3. 校正の途中で表題や共著者名等, 目次に関わりのある部分を変更することは避けて下さい. やむを得ず変更する場合は編集部内の各号の担当者へお知らせ願います.
4. 本誌に掲載された論文の著作権は, 日本理学療法士協会東北ブロック協議会に属することをご了承下さい.

〈原稿送付時の注意〉

1. 投稿原稿
 - 1) E-mail で提出する場合, タイトルを「第 28 号投稿用原稿在中」として下さい. 作成したソフト名, ファイル名を記載してください. 編集部でファイルを開くことが出来ないときは, テキスト形式など再度提出をお願いすることがあります.
 - 2) 郵送で原稿を送付する場合, 原稿 3 部 (うち 2 部は著者名, 所属を空欄にしてコピー) と CD 等を, 封筒に「第 28 号投稿用原稿在中」と朱記し, 「簡易書留」にてお送り下さい. 可能なら表紙, 要旨, キーワード, 本文をテキスト形式に落としたものも保存し, ラベルに著者名, タイトル, 使用したソフト名, ファイル名を明記して下さい. 封筒には, 投稿者の所属, 連絡先住所, 氏名, 電話番号, FAX 番号, メールアドレスを必ず明記して下さい. 何らかの理由で連絡を取り合う場合, 原則, メールにて連絡しますので, メールアドレスは必ず記載して下さい (携帯メール不可).
 - 3) 郵送の場合は, 査読済原稿を投稿者に返送するため, 宛名を書いた返信用封筒 (角形 2 号) に, 通常料金 (250 円) と簡易書留料金 (310 円) 分, 合計 560 円分の切手を貼って必ず同封して下さい. 電子メールの場合, 切手等は必要ありません.
2. 修正済み原稿
上記の投稿原稿と同様の方法で送付願います.
原稿を修正した場合は, 送付された査読者コメント用紙と修正した点や修正しない場合はその理由を簡条書きにした文書を同封して下さい. この時, 2 人の査読者へのコメントを一つにまとめずに, それぞれ分けて文書をご準備下さい.
3. 掲載原稿
郵送の場合, 掲載原稿 2 部 (1 部はコピー可) と CD 等を簡易書留にて送付下さい.

〈第 28 号の原稿締め切り日〉

投稿用原稿の締め切りは、平成 27 年 12 月 29 日（火）（郵送の場合は消印有効）とします。締め切りを過ぎた原稿は受け付けられませんのでご了承ください。

〈第 28 号の応募先・問い合わせ先〉

第 28 号に関する原稿送付及び原稿作成についての問い合わせは下記宛にお願いいたします。お間違いのないようご注意ください。

〒990-2331 山形県山形市飯田西 2-2-2
山形大学医学部附属病院 リハビリテーション部
（公社）日本理学療法士協会東北ブロック協議会
学術局機関誌編集部 第 28 号担当 石川 雅樹
TEL：023-628-5718
FAX：023-628-5719
E-mail：touhokupt@gmail.com